

【2015 年度 RFLJ プロジェクト未来 助成研究者の横顔 13 月田 早智子先生】

第 13 弾は「基礎研究・臨床研究」（I 分野）よりご紹介致します。

◆大阪大学大学院 生命機能研究科／医学系研究科

◆研究テーマ「胃上皮細胞タイトジャンクション（TJ）を構築する、膜貫通蛋白質クロロ
ディン（Cldn）18の、ノックアウトマウス解析からみた炎症がんの発生機序」

◆助成金額 100 万円

1. 研究者になろうとしたきっかけ

多くの人の役に立つ創薬や、生命現象を理解することに、漠然とした魅力を感じていま
した。

研究者になろうとした直接のきっかけには、

- ・実験がとても好きだったことや早くから研究者を目指していた主人との出会い、
- ・研究を楽しんでいた周囲の人との出会い、そして、思った成果が出たときの喜び、
などがあります。

2. 助成研究の内容紹介（素人にも解るようにお願い致します）

胃は、蛋白質分解のために、胃酸を分泌します。健康な時、胃酸は胃の外には漏れ出ま
せん。

これは、胃の表面をおおう、上皮細胞と呼ばれる細胞と細胞の間に酸の透過を防ぐバリ
ア（クロロディンという蛋白質がつくるタイトジャンクションとよばれるバリアがありま
す。）があるからです。

しかし、万一漏れると、あっという間に胃炎を引き起こします。私どもでは、クロロデ
イン蛋白質の異常により、

胃のバリア障害が生じた時の、胃酸の漏出を原因とする胃炎や胃の腫瘍形成機序ついて、
解析を進めます。

3. 2の将来に繋がる結果予想

胃がんは、持続する胃の炎症が下地となって生じると考えられています。ピロリ菌の感
染による胃がんでも同様です。

私どもでは、胃酸に対するバリアの脆弱化と胃の腫瘍との関連を調べることで、胃がん
を含む多くのがん治療へ結びつけることを目指しています。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

2人に1人が、がんにかかると言われていています。その一方で、がんは時として治るとの
意識も格段に上がってきました。

私どもでは、基礎研究を軸に、がんの理解と予防、治療への貢献を目指しています。

直接の即効的治療というより、いかに予防するか、そして、早期発見するか、大きな問題です。加齢の影響についても、考えていきたいと思っています。

また、治療に伴い、どのようにそのあとの状態をよくして、再発を防ぐか、などの問題に新しい視点からチャレンジしたいと思っています。

私どもも、RFLJ 関係の皆さまのお気持ちを大切にさせていただき、今回の研究を推進させていただきたく思います。どうぞよろしく願いいたします。